

重要文化財「通潤橋」壁石垣の一部崩落 修理工事の見通し

これまで、平成 28 年熊本地震による通潤橋の保存修理工事は、専門家や地元関係者による通潤橋保存活用検討委員会での議論を経て、最善を尽くして進めてきました。

しかし竣工間近に迫った、平成 30 年 5 月 7 日（月）12 時 10 分ごろ、道の駅側（五老ヶ滝川の右岸上流側）石垣の上部が一部崩落しました。崩落の範囲は、幅；約 10 m、高さ；約 3～4 m 程度で、壁石垣の 94 石に相当します。

今後の修理工事については、文化庁・熊本県と相談のうえ、大雨による災害復旧事業として、平成 30 年度中に新たに申請を行い、着手を目指します。

【修理の基本方針】

「通潤橋」は、堅固なアーチ構造や^{さや}鞘石垣を有し、肥後の石工の高い技術力により建造された水路橋で、類例のない貴重な石橋として国の重要文化財に指定されています。これまでの修理工事と同様に、その高い価値を損なわない内容と方法により進めていきます。

～応急処置～

崩落直後より、五老ヶ滝川に落ちた石材の引き上げや崩落石垣の隣接部へ単管パイプによる落石防止措置、石材へのナンバリング作業、石垣の変動を確認するための定点計測などを実施しました。また、崩落した石材や土砂の回収に取り掛かるには、二次災害を防止し、現場の安全を確保する必要があります。そのため、一時的な落石防止対策として熊本城の石垣復旧工事を参考に、崩落面への金網とモルタルの吹付工事を行い、雨水の流入を防ぎ、現場の安定化を図ります。

～今後の調査、検討事項～

現在、崩落面の測量調査や橋の 3 次元変位計測調査に着手しています。石材の回収後には、修理計画の立案のため、石材の計測・もとの位置の特定を行い、修理範囲や工法の検討を行います。あわせて、崩落要因を精査し今後の修理に反映していきます。



崩落直後
平成 30 年 5 月 7 日（月）撮影



崩落した石垣とむき出しになった通水管側面
平成 30 年 5 月 10 日（木）撮影



町長室から
梅田 穰

5 月 7 日正午過ぎ、通潤橋の石垣の一部が崩落しました。2 年前の熊本地震の影響により石管継目から漏水が発生し、文化庁の災害復旧工事が認定を受け、本年度中の完了を目指して仕事を進めていた中での崩落という事で、非常に残念でなりません。町としても教育委員会を中心に、崩落直後より川に落ちた石の引き上げ等の応急措置を行いました。県・文化庁・学識経験者との協議を進め、新たな災害復旧工事として取り組むことになり、5 月 30 日に「通潤橋保存に関する検討部会」を開催し、出来る限り早い時期の工事完了を目指し、測量・設計・工法等の決定をしていくことを確認したところであります。町民の皆様はもとより、町外の多くの方々からも通潤橋の放水の早期開始への期待の大きさを十分認識しつつも、国の重要文化財である事も十分に考慮して、未来に引き継ぐべき山都町の大切な宝物の復旧工事を進めて参ります。完工

まで時間がかかるかと思いますが、ご理解いただきたいと思います。同じく 5 月 30 日に新興企業など民間事業者 7 社及び関係者の出席のもと山都町関係企業懇談会を開催しました。これは企業同士の交流と役場職員と企業の皆様の意識の共有を図りたいとの思いから実施したものです。参加企業は、既に山都町に本社や事務所を置いて活動されている 3 社、進出を決めている 1 社、今後本町での起業を検討されている 3 社です。町としても本年 3 月末に全町整備が終わった光通信網基盤や、今年度末の九州中央自動車道北中島インター（仮称）の開通を企業誘致等の最大のチャンスとして捉えています。今後、国・県の各種補助事業等を利用しながら、町内の空き店舗、旧学校、体育館等の活用を積極的に進め、企業の方々に安心して進出していただけるよう、道路・住宅等の環境整備に積極的に取り組んで参ります。

山都町消防団 日本消防協会表彰旗受章

3 月 6 日に開催された第 70 回日本消防協会定例表彰において山都町消防団が優良消防団に授与される「表彰旗」を受章しました。これは、厳正な規律を保持し熟達した技能を有し、かつ普段から消防の使命を達成することに努めており他の模範となる消防団を対象に贈られるものです。山都町消防団は火災発生時の活動をはじめ、日々の訓練や地域での防災に対する指導、そして平成 28 年に発生した熊本地震や豪雨災害での活動が認められ受章しました。

表彰旗を受章したのは合併後初めてで、旧矢部町消防団が昭和 36 年、旧蘇陽町消防団が昭和 44 年、旧清和村消防団が昭和 50 年に受章して以来の快挙で、今回は熊本県で唯一の受章となりました。

4 月 29 日に開催された受章祝賀会において松岡和博団長が「今回の受章は、山都町消防団が発足して 13 年の間、消防団の発展と拡充のために御尽力いただいた諸先輩方の不断的努力と熱意の賜であり、この受章を契機に、地域住民の生命、身体及び財産をあらゆる災害から守るため、粉骨砕身して防災活動に邁進していきたい」と決意を述べられました。



受章祝賀会で挨拶する松岡和博団長



蒲島熊本県知事と上益城郡の消防団長



受章した表彰旗